

東公民館

伝承行事 安井稲荷神社の「初午祭」  
はつうまつり

鶴吉公民館

大政 邦和

2月2日(日) 17時半、初午祭が鶴吉稲荷神社で行われ、大字全体から、女性も子どもも多く参加して1000人近い人々にぎわった。

初午祭は稲荷神社の祭礼、2月最初の午の日に行われる。おこりなどは不詳であるが、伏見稲荷大社の初午(紀元1371)の影響か? この地でもっと古くから祭ってきたものか、分からない。安井では、春の初めに農事に先がけて山の神を「御火焚き神事」で迎えて「田の神」を祭って農作豊収を祈るらし



▲神事の様子



▲燃え盛る炎

い。火を焚く安井の初午祭は珍しい。

神事が終わって、きな粉むすびと沢庵などが配られた。子どもが喜ぶ食べ物もあって、お母さん方の気配りを感じた。燃え盛る火柱を囲んで子ども

はいっそうはしゃぎ、大人も御神酒が入って談笑の輪が広がった。集まった人々は火をじーっと見つめて何を思い、感じたのだろうか? あらためて火の力やぬくもりに感謝したい。人がまばらになった20時前、ポンプ車と7名の消防団員によって消火された。昔の初午祭は、神事が無く安井地区だけで行われていた。



▲念入りに準備されたしめ縄が飾られ、火が焚かれる

最高学年(大将)の采配で、リヤカーを引いて廻り、米は宿で炊いてもらいソフトボールほどの大きなきな粉むすびに仕上げた。「二斗じたみ」2杯分はあった。集めた薪が少ない時には隣の伊予神社や草田池へ薪集めに走ったりして、子どもだけで大いに楽しんだ。戦中・戦後は中断されたが、昭和30年ごろまでは行われていた。

途絶えていた初午祭は、子どもの伝承行事として昭和50年代に、松前町東公民館鶴吉分館活動の一環として復活され現在に至っている。4人の稲荷神社世話人、愛護部、婦人部、消防団のご協力により平成15年の幕が開けられた。

ふるさとをたずねて

二名神社と松山城改築御用木の供出

文化財保護審議会委員

西村 博明

天明4年元旦の夜、松山城天守閣及び諸櫓が落雷により焼失した。

藩主松平定通侯はこの復旧のため弘化4年11月9日に小普請奉行に小川九十郎を任命、専ら城郭振興にあたらせた。

奉行は大工、坂本又衛門、田内久左衛門、住右衛門、弥一郎、善兵衛の5人を棟梁として工事の進展をはかった。

用材として領地全域より45万才を集木したと伝えられている。

この際、北伊予地区では徳丸の高忍日売神社の松材、出作は恵依弥二名神社の大楠、

神崎伊予神社は主として松材が供出されている。

この集材には棟梁善兵衛が現地調べをしている。

用材全般の山だしは嘉永元年から始まり、嘉永3年4月3日に上棟式をし、落成の式典は安政元年2月8日に行われた(現在の天守閣)。

この時、切り出した二名神社の楠の脇芽が現在、社の南西に成木となり天を圧する程に成長し、過去幾年月を経過し歴史を静かに物語っているようである。

現在この木の元に、平若左近の五輪が祭られている。



▲恵依弥二名神社の楠の大樹(建物は吉祥寺)



▲二名神社の楠と平若左近の五輪